

倉賀野 めぐり

歴史を偲ぶ建物

歴史を偲ぶ建物

(印刷語訳参照)

1 須永家 非公開
屋根は切妻造。瓦葺きで総二階の典型的な養蚕農家のつくりだが、天窓やぐら、きぬぎなどと呼ばれる(は)はない。二階部分は出し桁で、手すりが取り付く。養蚕のための二階と居住のための一階を分けるスライド式のふたがあった。昭和三年(1928)の築造といわれ昭和四十年(1965)まで養蚕を営んでいた。

2 湯浅家 非公開
屋根に二つの小さな天窓が載った切妻造、瓦葺き、総二階の典型的な養蚕農家のつくりで、明治三十八年(1905)の築造と伝えられる。台所や便所などは改修されているが、土間は当時のまま。桑きりの道具やカゴが今も残っている。

3 宮下家土蔵 非公開
東側全面と腰壁にナマコ壁が施された二階建ての土蔵。一階はいわゆる「大阪戸」といわれる漆喰塗りの引き戸、二階は観音開き戸で裏面が朱塗り。明治三十七年(1904)の築造といわれ、平成十三年(2001)の改修で美しく再生された。

4 真嶋家 非公開
屋根は寄棟造。総二階の住宅。先代の主人が設計。(床下に湿気対策の「浅間砂」を入れていたという)玄関にかかる破風飾りが目を引く。昭和八年(1933)の築造で当時の住宅の姿を伝えている。

5 鈴木家長屋門 非公開
間口三間、奥行き二間半の総二階の長屋門。出入口の引き戸は、一方にくくり戸のついた大戸の形式。大正四年(1915)の築造と伝えられる。

6 須賀家 脇陣跡 非公開
(たかさき都市景観賞)

江戸時代には河岸問屋を営み、脇陣でもあった。中山道に面する現在の主屋は連子格子と深い軒、大きな屋根が重厚な趣を造りだす。明治二十年代(1887~1896)の築造といわれている。裏手の薬医門や桁行きが十間ある土蔵などは明治以前の築造と伝えられる。

7 茂木家 非公開
コンクリート造りの門の奥に建てられた主屋は、一定規模以上の家を作るのが規制され、建築資材の入手が困難であった戦争当時、昭和十五年(1940)の築造。軽快な入母屋造の屋根と土壁が、和風の趣をかたちづけている。

8 筒井家 非公開

主屋の屋根は切妻造の瓦葺き。一階は前面全てが引き戸で、二階も両端の半間をのぞいて開口部となっており、かつての商家の外観を伝える町家。大正十二年(1923)の築造。主屋の東に隣接する建物は、緩い勾配の屋根がかかった間口二間半の小規模な平屋で、現在は倉庫として使われている。明治三十年代(1897~1906)の築造といわれている。

9 鳥羽家 非公開

一階の前面全てが開口部となっている。二階の屋根を出し桁で支え、棟も高い商家の造り。昭和八年(1933)の築造。



1 須永家 2 湯浅家 3 宮下家土蔵 4 真嶋家 5 鈴木家長屋門 6 須賀家 7 茂木家 8 筒井家 9 鳥羽家

10 山茶庵 非公開
倉賀野駅入り口の交差点に面し、隣り合う日置家と一棟をなす、いわゆる棟割り長屋。出入口は角地を利用して、道に面して二方向に開口部がもつけられ、軒の出が大きいので雨がかりにくい建物。昭和初期の築造。

11 日置家 非公開
間口二間半、一階前面全てが引き戸となつた街道に沿った商家の趣を伝える建物。山茶庵とは棟続きで、昭和初期の築造。

12 高橋家 非公開
街道に面した一階は、間口五間全てが開口部となり、二階が三間からなる町家。軒の高さは隣接する日置家より低く、古さを感じさせ、山茶庵からの並びががががの街道の風情を伝える。昭和八年(1933)築造。

13 飛田家 非公開

九品寺門前にいたる道に面して建つ主屋は屋根が切妻造で、棟と平行な面に入り口がある、いわゆる「平入り」の建て方をした町家の特徴を残す建物。敷地内には、切妻造の瓦葺きで養蚕農家風の建物もある。ともに昭和初期の築造といわれる。

14 小黒家 小黒商店 非公開

屋根は緩い勾配の入母屋造で瓦葺き、一階の前面全てが引き戸で、二階前面には看板が付くが、商家の特徴がよく残されている。築造当時には、現在の店の土間にかまどがもつけられていた。昭和初期の築造。

15 織茂家 非公開

屋根は切妻造の平屋。間口三間に対し奥行きを深くとつてあるのが特徴。先代代の主人が建てた当時は二階建てであった。軒の木口に銅板が張つてある丁寧なつくり。地盤補強のため機関車で使用した石炭ガラを敷いている。昭和初期の築造。

16 堀口家 非公開

中山道と山名道の交差点に面した町家。一階は角地を利用して道に面して二方向に引き戸がもつけられ、北東部の角を斜めに納めた、いわゆる隅切りとしている。昭和八年(1933)の築造。

17 藤澤家屋敷稲荷 非公開

屋根が檜皮葺で、正面の柱間がひとつの、いわゆる一間社流れ造りの屋敷稲荷。新潟の宮大工の手による建物で、組み物などの細部も丁寧に造られている。明治期の築造。

18 大山家 大黒屋 非公開

(たかさき都市景観賞)
かつては、大黒屋の屋号で穀物商を営んでいた蔵造りの商家。中山道からの路地(郷蔵道)に並んで建つ土蔵のナマコ壁が続く。昭和初期に曳家をしたもので、明治期の築造といわれる。

19 矢島家 非公開

中山道に沿って町家の佇まいを残す主屋は、二階屋根を出し桁で支えるせがいで造り、和風の伝統的な要素が感じられる。以前、主屋東の下屋には土間があり、食事をとる座敷がもつけられていた。昭和十年代(1935~1944)の築造。



10 山茶庵 11 日置家 12 高橋家 13 飛田家 14 小黒商店 15 織茂家 16 堀口家 17 藤澤家屋敷稲荷 18 大山家 19 矢島家 20 平井家

20 平井家 非公開
屋敷には主屋、長屋門、土蔵や裏の井戸など農家の構えをのこす。物置や居室がもつけられた長屋門は、倉賀野ではあまり見かけない。長屋門の西は物置、東は馬屋、二階は番頭が使用していた。明治以前の築造といわれる。

21 清塚ヨシ家 非公開

主屋は屋根に三つの天窓が載った切妻造で瓦葺き、総二階の典型的な養蚕農家。この地区では大規模なもので土蔵や敷地の北西側にあるカシグネとともに、かつての農家の屋敷構えを伝えている。明治初期の築造。

22 清塚豊家 非公開

主屋一階の座敷は以前は土間で、牛なども家の中で飼われていた。かつては養蚕をしていた農家で、土蔵は棟も高く、観音開き戸がつき、南側にナマコ壁も残っている。主屋は明治期の築造、土蔵はそれ以前といわれる。

23 大山家 大山小児科 非公開

(たかさき都市景観賞)
街道の拡幅に伴い、昭和九年(1934)に建て替えられたがそれ以前の建物と間取りを同じにした。昭和六十三年(1988)に改修し、主屋と土蔵、門そして塀や松が一体となり、中山道に沿って現在のようになつた景観となっている。

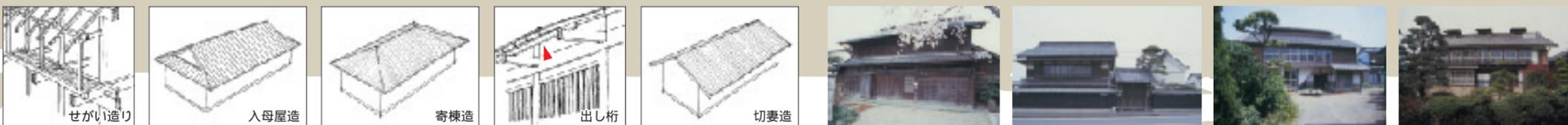
24 吉野家 叶屋 非公開

連子格子が印象的な主屋には内部に通り庭が一部あり、叶屋の屋号で造り酒屋を営んでいた頃を思い起こさせる。季節を感じるのことができる建物といわれる。明治二十年代(1887~1896)の築造。

用語解説

切妻造 二つの面を合わせた形状の屋根をもつ造り。
出し桁 腕木・出し梁・片持梁などの先端に渡してある桁。
ナマコ壁 方形の平瓦を並べ四隅を釘止めとし、目地に漆喰を盛り上げ凹形にしたもの。
観音開き戸 戸の開閉方式が両開き。
寄棟造 大棟から四方に置き下ろした屋根をもつ造り。
破風(板) 屋根の妻面に取り付けられ垂木を隠す山形の板。
長屋門 門の左右や上部に、居室あるいは物置などを配置した形式の門。
連子格子 民家に見られる格子のひとつ。開きが三・五・四寸の等間隔に堅格子を入れその中ほどで貫を通したもの。
薬医門 二本の本柱と二本の控柱で構成され、上に切妻または入母屋の屋根を架ける。
桁行き 小屋梁と直行する方向、あるいは柱間隔の小さい方向。
入母屋造 寄棟屋根の上に切妻屋根を被せたような形の屋根をもつ造り。
棟割り長屋 一棟の建物を分けて幾つもの住戸を連れた長屋。
木口 木材の繊維方向に直角の端面。
隅切り 角を切取ること。
檜皮葺き ヒノキの樹皮を剥いだ檜皮を屋根に葺いたもの。

せがいで造り 神社の社殿形式のひとつ。切妻平入りの前方に、礼拝者用に庇を吹きおろす形式。せがいで造り。近代の民家で、側柱上部から腕木を突き出し、その上に小板を張り軒裏を飾った造り。下屋、主屋の外壁に接して設けられた片流れの屋根、およびその下にある空間。
カシグネ 防風の役目を持つ檜の木を生垣。



21 清塚ヨシ家 22 清塚豊家 23 大山家 24 吉野家



須賀家 脇陣跡



倉賀野駅からの所要時間

脇本陣跡 須賀家	徒歩約7分
倉賀野河岸跡	約10分
倉賀野神社	約12分
間廬堂	約12分
浅間山古墳	約20分

- | | |
|--------------|------------|
| レンタサイクル | 銀行・信用金庫 |
| 交番 | 路線バス |
| 公民館 | ぐるりん(循環バス) |
| 消防コミュニティセンター | 碑 |
| たかさき人権プラザ | 駐車場 |
| 児童館 | トイレ |
| 市民サービスセンター | |